

2025年度(令和7年度)の取り組み予定等

- 日本建築士事務所協会連合会/BIMと情報環境WG
- 2025.3.27第14回建築BIM推進会議



1. 報告内容

【今年度後期の活動内容】

- 令和6年度BIM技術者に対する技法、技術研修の実施

【来年度活動予定】

- BIM活用アイデアコンペティションの継続開催
- 会誌「日事連」での連載を継続
- BIMポータルサイト「BIM GATE」の充実化

2. 活動報告

令和6年度BIM技術者に対する技法、技術研修の実施

国土交通省 建築BIM加速化事業(調査・評価事業及び普及・広報事業)として、円滑なBIM利用による建築設計業務の普及を一挙に進めることを目的とした「令和6年度BIM技術者に対する技法、技術研修」を実施。

昨年度の実施内容を踏まえ以下の内容を拡充し実施した。

- 申込要件の緩和
- カリキュラムの更新
- 定員100名→400名へ大幅増加

国土交通省 建築BIM加速化事業 令和6年度 BIM技術者に対する 技法、技術研修

申込期間

6/3 [月] ~ 6/28 [金]

(定員に満たなかった場合、申込期間を延長する可能性があります。)

受講期間 (動画講習3か月+実技ライブ演習1か月)

9/2 [月] ~ 12/27 [金]

概要

令和5年度に実施したBIM技術者に対する技法、技術研修を、令和6年度も開催します！
実習を交えた研修と、実際の建築プロジェクトを作成する演習の二段階の研修で構成された実践的な講習プログラムにより、建築技術者が実際の建築プロジェクトでBIMを活用して完成させるために必要な一連のスキル習得を目指す研修です。各ソフトの利用実態に応じたBIMソフト別のクラス構成とカリキュラムで開講します。
研修は、動画講習と実技ライブ演習にて、以下の通り実施します。
▶動画講習 (9~11月) : 受講期間内いつでもご視聴いただけるオンデマンド方式にて実施
▶実技ライブ演習 (12月) : 12月は通に1度ライブ演習を実施
なお、今年度は申込要件を緩和し、建築士資格を持たない建築士事務所の設計者の方にもご参加いただけます。ぜひ、お申し込みください。

定員

400名 (※1、2)
(※1) Archicad (定員100名)、
GLOBE Architect (定員100名)、Revit (定員100名)、
Vectorworks (定員100名)のソフトごとに開講します。
(※2) 定員を超える申込があった場合は抽選とします。

申込要件

① 受領申込時点で建築士事務所に所属している設計者であること
(建築士資格未取得者も申込可。1事務所からの複数名の申込も可。なお、1事務所から複数クラスへの申込は不可。)
② 各申込クラスの利用ソフトを所持している専利用できる環境にあること
③ 4か月間の講義すべてを受講できること
④ オンラインにより受講できる通信環境にあること
※Archicadクラスを受講希望の方で、BIM Classesを既に受講済み又は受講中の方については、内容が重複するため対象外となります。
※一部ソフトについては受講期間内限定のライセンス貸与が可能です。詳細は右記の申込サイトでご確認ください。

参加費

無料

申込方法

右記のBIM GATE内特設ページの申込フォームよりお申し込みください。



[主催] 一般社団法人日本建築士事務所協会連合会

BIM技術者に対する技法、技術研修広報チラシ

2. 活動報告

令和6年度BIM技術者に対する技法、技術研修の実施

研修後にアンケートを実施。受講者390名のうち、動画研修アンケートで139名、実技ライブ演習アンケートで129名からの回答を得られた。両研修ともに、**8割以上の回答者が実践的で役立つと回答。**

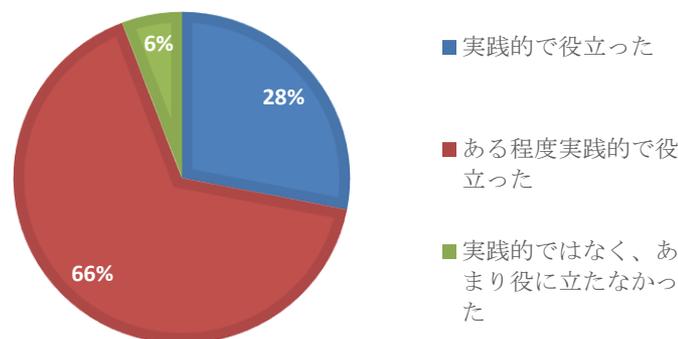
ベンダー3社から、昨年度より引き続き講習期間内のソフト貸与のご協力があったことで、BIM導入に躊躇している層にも参加可能な環境を整えることができた。

(※)オートデスク(株)、

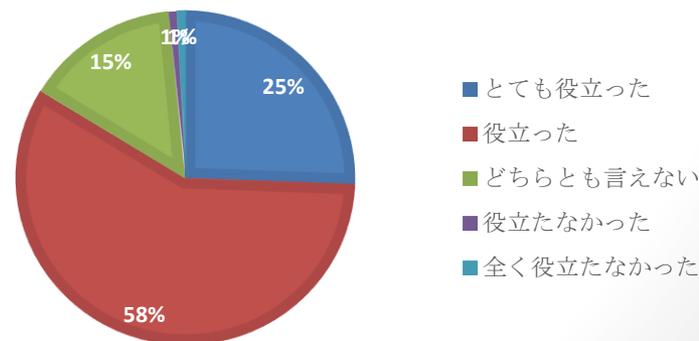
福井コンピュータアーキテクト(株)、

ベクターワークスジャパン(株)

講義の内容が実践的かどうか
(動画講習)



研修が実務に役立つと感じたか
(実技ライブ演習)



2. 活動報告

令和6年度BIM技術者に対する技法、技術研修の実施

<アンケート概要①>

BIMの有用性に関する問いに対しては、昨年度と同様に、BIMが有用で実務応用が期待できると半数が回答した一方、半数が実務応用には課題があると回答。

実務に移行するための課題として、動画講習と実技ライブ演習のそれぞれで調査したが、同傾向の回答で、「技術者のBIM習得に関する課題」「ソフトの操作性・機能改善」「高額な導入費用と環境整備の負担」「現場や組織内外の連携不足」の4点に対して、BIMの実務移行を妨げる主な課題として感じている回答者が多い傾向であった。特に、「習得までに時間がかかる」などの技術者のBIM習得に関する課題に関する回答は最も多くみられた。多くの回答者は、BIMの操作や複雑な機能をマスターするまでに時間を要し、特に年配技術者や初心者にとっては大きなハードルとなっている。

2. 活動報告

令和6年度BIM技術者に対する技法、技術研修の実施

<アンケート概要②>

実務への取り込みに関しては、プロジェクトごとの業務工程の中でBIM活用をどのように位置付けるかなど、スムーズな業務移行の仕組み作りが必要との回答がみられた。

またソフト自体の使い勝手向上や、部材・テンプレート等の周辺データの整備、ソフトウェアやPCなどの導入・維持にかかる費用面の負担も、多くの回答者が課題として感じている。

加えて、外部の施工業者や協力会社との連携、社内での統一的な取り組みなど、組織全体および業界全体での環境整備とサポート体制の強化が急務であるとの声も寄せられた。

実技ライブ演習ではさらに、詳細図作成が困難であることや、申請対応などの実務移行後に直面する課題に言及する回答も見られた。

2. 活動報告

令和6年度BIM技術者に対する技法、技術研修の実施 ＜実務に移行するための課題点回答内容＞

動画講習回答	
分類	回答数
技術者のBIM習得に関する課題	53件
BIMソフトに関する課題	32件
費用に関する課題	22件
会社組織に関する課題	22件
実業務への取り込み・システム移行に関する課題	19件
業務時間・計画に関する課題	19件
他社等との連携に関する課題	16件
BIMオブジェクト等整備環境に関する課題	11件
BIMを取り巻く環境に関する課題	10件
サポート体制の課題	9件

実技ライブ演習回答	
分類	回答数
技術者のBIM習得に関する課題	36件
BIMソフトに関する課題	14件
実施設計図、詳細図、オブジェクトの作成が困難	11件
実業務への取り込み・システム移行に関する課題	10件
費用に関する課題	10件
他社等との連携に関する課題	9件
BIMオブジェクト等整備環境に関する課題	9件
業務時間・計画に関する課題	8件
会社組織に関する課題	8件
BIMを取り巻く環境に関する課題	5件
サポート体制の課題	4件
確認申請への対応	4件

2. 活動報告

令和6年度BIM技術者に対する技法、技術研修の実施

<各分類の主な回答①>

① 技術者のBIM習得に関する課題

「操作量が多く覚えるのが大変」「習得に時間と費用がかかりすぎる」

② 実業務への取り込み・システム移行に関する課題

「従来の業務を見直すかBIMと現行のCADを併用するか」

「実施設計への移行・図面化が課題」

③ サポート体制の課題

「講習会での機会が欲しい」「ヘルプ機能の充実をお願いしたい」

④ 他社等との連携に関する課題

「BIMを使用していない人との連携に多少の問題を感じた」

「元請と業者での連携の難しさ」

⑤ 業務時間・計画に関する課題

「必要作業時間の予想ができず、工期の余裕がある物件でないと試行が難しい」「作業時間との勝負」

2. 活動報告

令和6年度BIM技術者に対する技法、技術研修の実施

<各分類の主な回答②>

⑥ 費用に関する課題

「ソフトが非常に高額である」「導入コストと維持コストが高額すぎる」

⑦ BIMソフトに関する課題

「操作性を良くしてほしい」「待ち時間が生じる」

⑧ BIMを取り巻く環境に関する課題

「建具など日本メーカーから仕様を引っ張ってこれるようになると入力の手間がなくなる」

⑨ BIMオブジェクト等整備環境に関する課題

「実際に使用する部材データが不足している」

「部材が整っていないと、平面から各図面への展開に制限が出る」

⑩ 会社組織に関する課題

「社内においてBIM操作スキルの習得に差がある」

「社内での普及が課題」

2. 活動報告

令和6年度BIM技術者に対する技法、技術研修の実施

<各分類の主な回答③>

⑪ 実施設計図、詳細図、オブジェクトの作成が困難

「実務的には詳細図を作成しなければなりませんので、金物やシャッター・その他特殊な材料など、3Dカタログがなく、汎用3Dでの作成も困難なものがあるとどうしても二次元CADに戻らざるを得ないところがあります。」

⑫ 確認申請への対応

「これから確認申請書類関連もBIMで行っていくことになるかとまた課題があるのかなと思いました。」

「申請業務等を踏まえた環境(テンプレート・ファミリ等)の構築が必要であると感じています。」

⑬ その他

「とくになし」「実務をしないと始まらない」

2. 活動報告

令和6年度BIM技術者に対する技法、技術研修の実施

アンケートでは、研修動画の閲覧期間延長に関する回答も多く寄せられ、国土交通省からも一般公開の要請があったことを受け、3/7(金)より、一般公開の承諾を得られたGLOOBE Architectクラス、Vectorworksクラスの研修動画およびテキストについては、BIM GATE上で公開した。Revitについてはテキストのみ公開する。本教材は、BIMの導入・活用に有効と考える。

GLOOBE Architect

教材ダウンロード

テキストPDF サンプルデータ

講習動画

BIM DESIGN

道路と地盤を幅広く (1)

スペースを広く (2)

GLOOBE Architect 【第1回目】 BIM技術者講習 時間 | 47:41

GLOOBE Architect 【第2回目】 BIM技術者講習 時間 | 53:31

GLOOBE Architect 【第3回目】 BIM技術者講習 時間 | 1:01:47

VECTORWORKS

教材ダウンロード

テキストPDF 研修用データ① 研修用データ② 研修用データ③ 研修用データ④ 研修用データ⑤

講習動画

VECTORWORKS chapter1

VECTORWORKS chapter2 1

VECTORWORKS chapter2 2

時間 | 57:55

時間 | 1:04:06

時間 | 51:24

2. 活動報告

令和6年度BIM技術者に対する技法、技術研修の実施

また、研修動画閲覧ページでは、アンケート調査も実施する。今後も継続的にデータを収集し、BIMの普及・促進を妨げている課題を収集する。

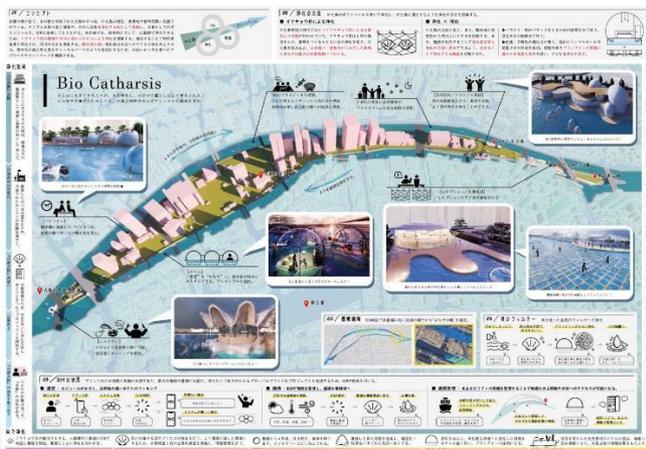
本アンケートにて収集したデータおよび国土交通省で実施しているBIMの活用・普及状況の実態調査結果等を踏まえながら、今後も事業計画を検討し、さらなるBIMの普及・促進に寄与するため、引き続き活動していく。

3. 活動予定

BIM活用アイデアコンペティションの継続開催

BIM利用による設計コンペを主催し、建築士・学生に対し、BIM活用への意欲の喚起、BIM活用能力の向上・積極活用のきっかけとするとともに、提案作品を通じて広く一般社会にBIMの価値を示すことを目的に、2014年より開催。

2019年度より、学生だけでなく社会人にも対象を拡大し、毎年開催しており、2024年度は動画提出も要件としたことで、一歩先の未来が垣間見えたコンペとなった。



2023年度最優秀賞
「Bio Catharsis」



2024年度最優秀賞
「開花する隠れた情景たち」

3. 活動予定

BIM活用アイデアコンペティションの継続開催

主管単位会が栃木→福岡→宮城→大阪→神奈川と移ることで地方へのBIM展開が図られ、また提案のレベルが向上し、活用の多様性が拡大した。

また、運営にあたって各地の建築士事務所協会が行政と適切に連携して要項を作成し、BIMがもたらす効果を見える化し、BIM普及への意識づけ、あるいはBIM活用のリーダー育成に、着実に取り組んできている。

来年度は徳島での開催を予定している。

マロニエコンペティション サイトURL

→<https://www.marronnier-bim.com/>

3. 活動予定

会誌「日事連」での連載を継続

BIMの普及促進を目的として、最新情報の紹介、基礎知識の提供など、幅広い視点からBIMやAIをめぐる記事を掲載。2カ月に1度の連載で、現在までに通算35回掲載。

引き続き、設計組織でのBIM導入後～活用に至るまでの事例を紹介している。本内容は、中小事務所がBIM導入を検討する上で課題となる部分であるため、先行事例の紹介を幅広く紹介し、BIMの普及・促進に取り組む。

継続

BIMで変わる、BIMで変える —BIMをとことん使いこなそう!—

この連載では、建築ジャーナリストの樋口一希氏の案内でBIMの最先端の動きを紹介してきました。第2部は、BIMを実践に使いこなしておられる建築士事務所へ登壇いただきます。設計プロセスの合理化だけでなく、建築士事務所の経営変革に大いに活用した実践をお聞かせください。これは、BIMの可塑性の扉を開けてみたら、そこには、建築界や社会もまるごと変えてしまうという可能性が潜んでいた、というお話です。みなさん、BIMを使って元気になりましょう！
(BIMと情報環境ワーキンググループ)

34回 BIMがもたらす協働の成果 ～離れた拠点をつなぐ取り組み



久家一哲
（株）久家設計事務所
（代表取締役）

不動剛志
Echidna
（一般建築士事務所）
（代表）

私たちは、別々の組織設計事務所での勤務経験を経て、長崎県諫早市・兵庫県淡路島と異なる拠点で活動しています。大学時代の縁もあり、組織設計事務所での経験や地元で働くことを選んだ共通点があったため、今ではJVを組んで協働で設計を進めることが増えてきています。お互いに内外期の検討・環境コミュニケーション・数量算出などさまざまなメリットを感じ、時間をかけて Revit で設計するスタイルを確立してきました。現在は、計画段階から実施設計まで BIM を駆使して設計を進めています。単独で設計するうえで有効ですが、BIM で協働設計することで、より付加価値のある建築を実現できることを実感しています。

BIM+オンライン打ち合わせを駆使した設計プロセス

長崎県諫早市のオフィスビルプロジェクトでは、

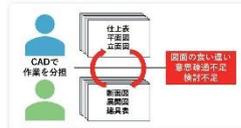


図1 CADでの検討

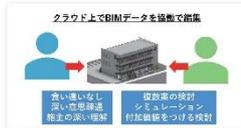


図2 BIMでの検討

クラウド上でBIMデータを協働で編集

古い図面を廃止
深い意思疎通
追加の図面

設計者の検討
シミュレーション
付加価値をつける設計

32 日事連 2025.1

<https://www.njr.or.jp/aboutus/magazine/>
(詳細はお問い合わせください)

3. 活動予定

BIMポータルサイト「BIM GATE」の充実化

令和6年度は、BIMに関わる幅広い方々を対象としたBIM情報ポータルサイトで、BIM導入に関する情報提供を継続すると共に、BIM技法、技術研修の募集にも活用し、着実にユーザー数を増やした。今後、BIM技法、技術研修の教材公開後の流入データも計測対象となることから、更なる利用者増が見込まれる。

BIM技法、技術研修募集期間



3. 活動予定:

BIMポータルサイト「BIM GATE」の充実化

建築技術者に最新の有益な情報を提供するため、引続き内容充実を図る。BIM進展とともに増大する情報を整理し、BIM初心者が挫折しないための支援を継続する。

建築界で幅広く活用されるよう、各団体・部会からの情報提供・リンク、運営アドバイスを期待する。

BIM GATE サイトURL

→<https://bimgate.jp/>

ご清聴ありがとうございました